

介護現場における 介護テクノロジーの導入について

令和8年8月

茨城県福祉部長寿福祉課
介護基盤整備担当

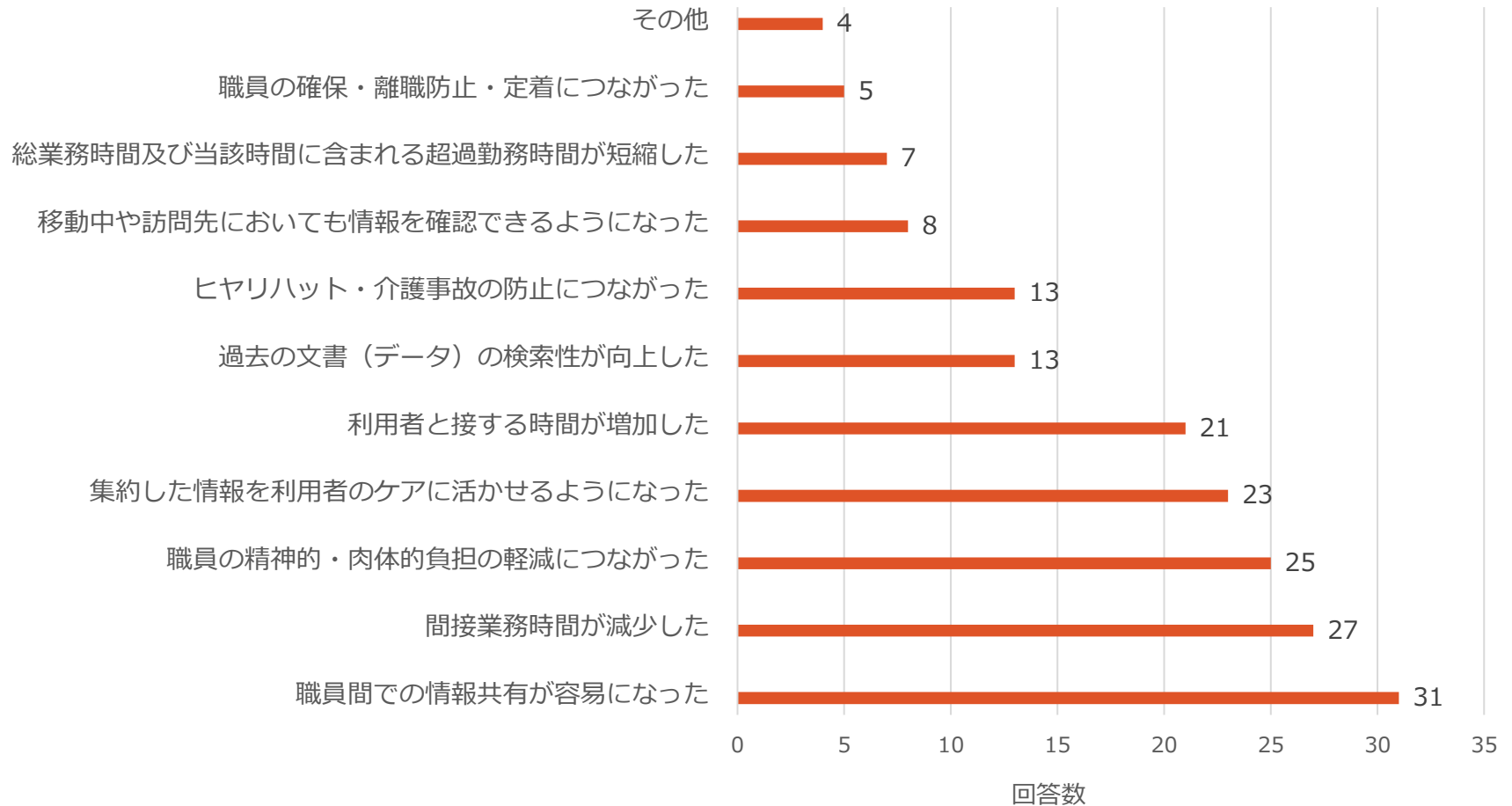
介護テクノロジーとは？

介護テクノロジーとは、介護ロボットやICT等のテクノロジーの総称。
県では、介護現場における職員の負担軽減や業務の効率化などの生産性向上に取り組むため、介護テクノロジーの導入支援を行っている。



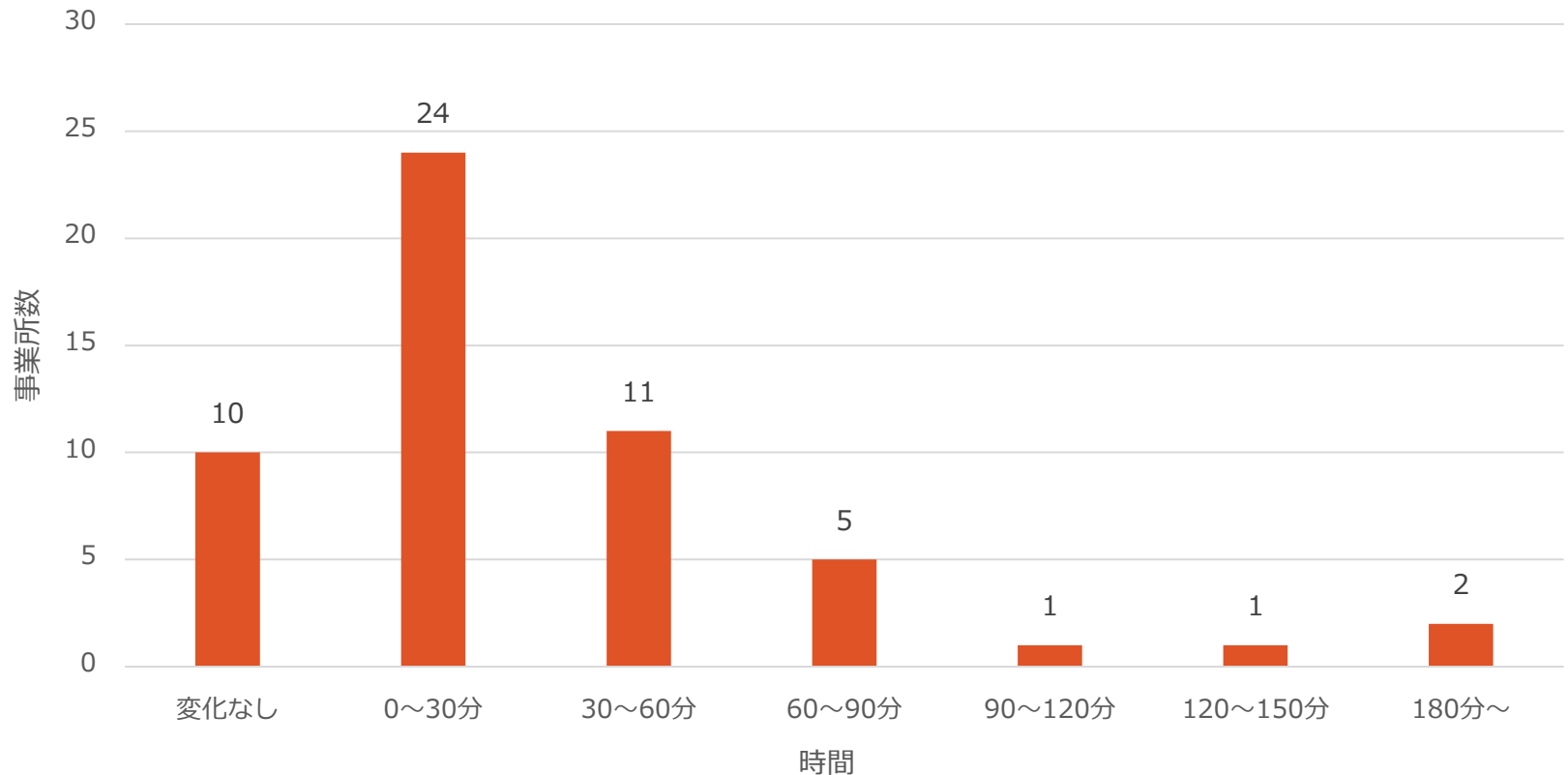
テクノロジーの導入効果①

事業所運営・業務において実感した効果



テクノロジーの導入効果②

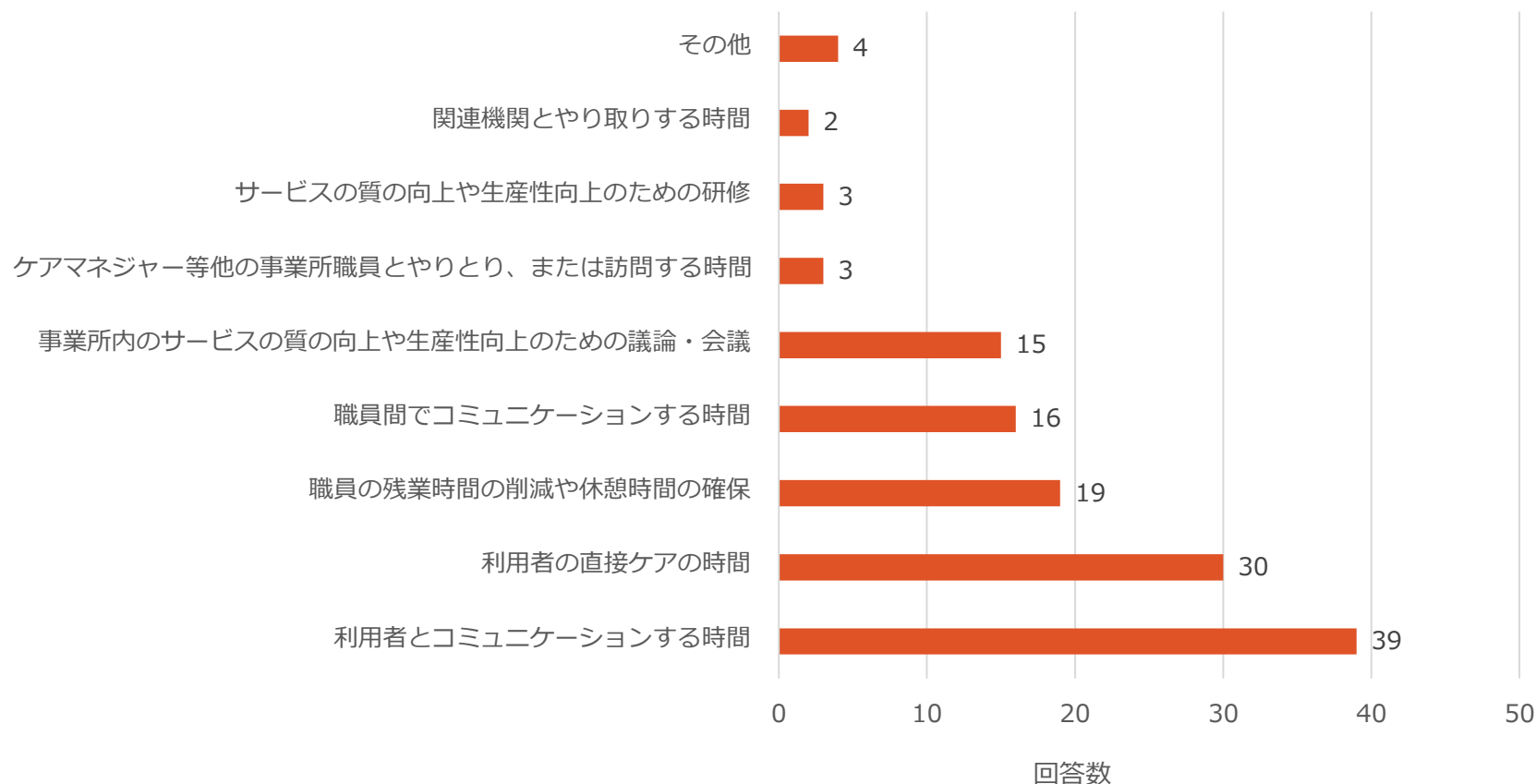
減少した間接業務時間※（職員1人あたりの1か月平均）



※情報の記録・入力及び夜間巡回など、利用者とは直接接しない形で行う業務

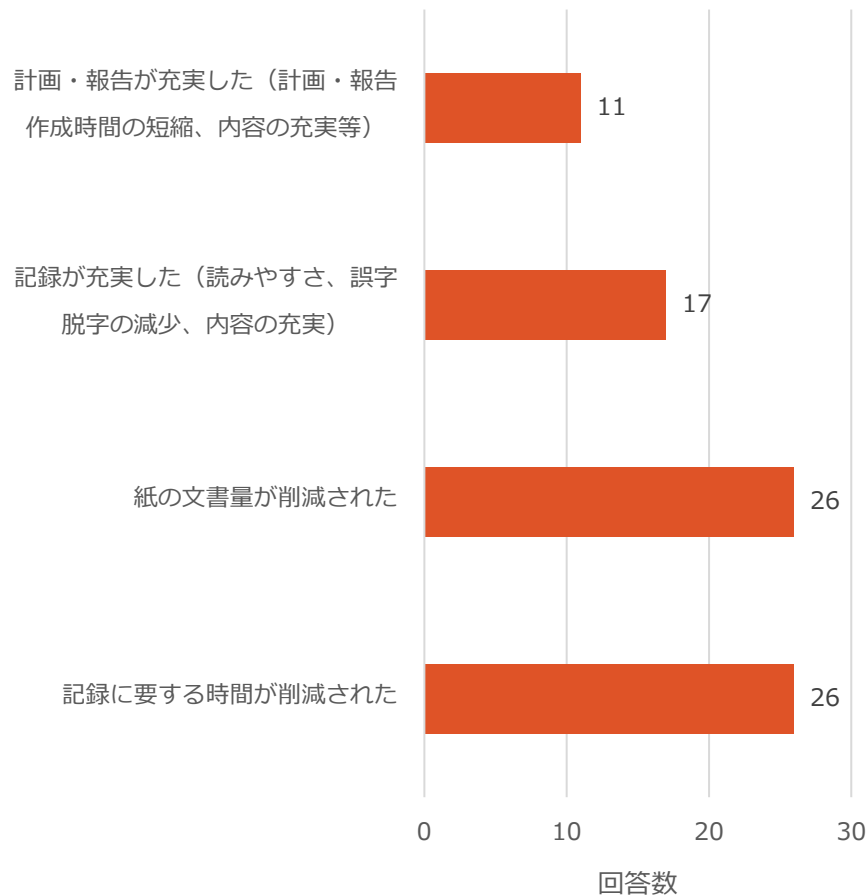
テクノロジーの導入効果③

減少した間接業務時間の活用先

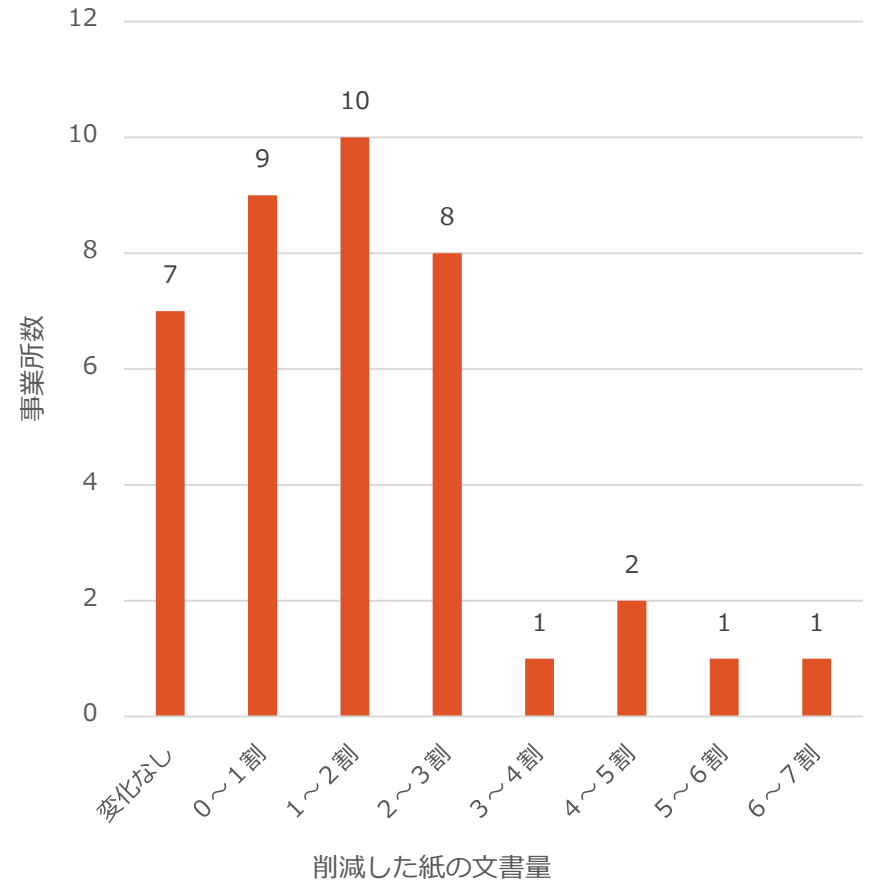


テクノロジーの導入効果④（記録について）

記録業務で実感した効果

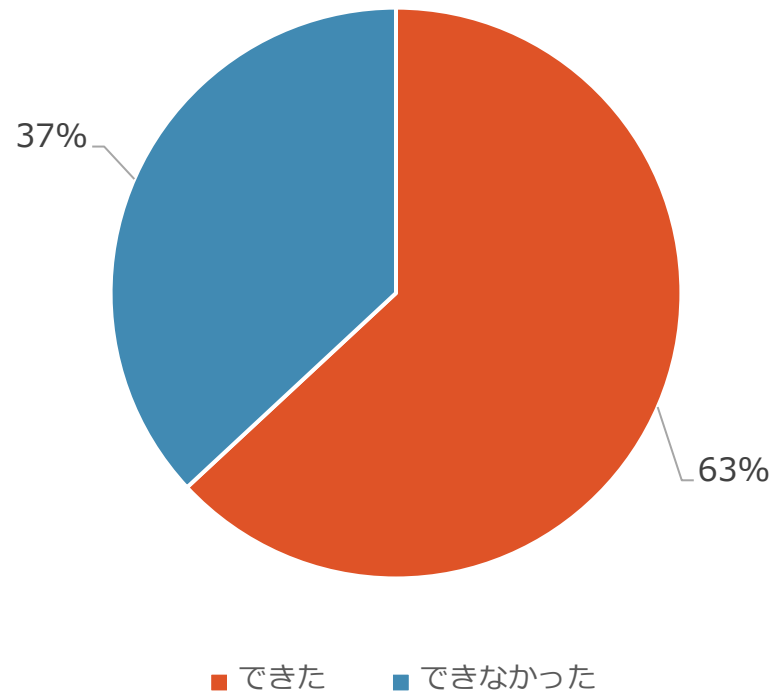


1事業所あたりの1ヶ月平均で削減できたおおよその紙の枚数



テクノロジーの導入効果⑤

賃金への還元（導入の結果、収支が改善し、
職員の賃金への還元ができたか否か）



現場における活用事例①

●介護ロボット (取材協力：特別養護老人ホーム アクティブハートさかど、令和3年度取材)

■ 導入機器 マットレスの下に敷くマット式の見守りセンサー

■ 主な機能

- 入居者の離床、睡眠状況、心拍数、呼吸数を把握可能
- 離床状況等はパソコン画面で確認
- アラームの鳴るタイミングを利用者ごとに設定可能

■ 活用状況、効果等

- 睡眠状況や呼吸状況が色分けして表示され、一目で分かりやすい
- 夜間のおむつ替えやトイレの付き添いで利用者を無理やり起こす必要が無い
- 過去のデータが残るため、医師への説明資料としても活用可能
- 個々の生活リズムに合わせたサービスが提供できるようになった
⇒ユニットケアに効果的



現場における活用事例②

●ICT機器

(取材協力：特別養護老人ホーム あかねサクラ館、令和3年度取材)

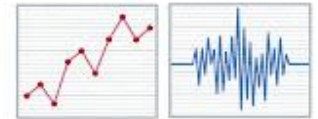
■ 導入機器 介護ソフト、タブレット

■ 主な機能

- 介護記録から請求業務まで一括で行うことが可能
- タブレット、パソコンに介護ソフトをインストールして使用
- タブレットで入力した内容が、転記不要でパソコンに連携

■ 活用状況、効果

- タブレットによる入力作業で介護記録業務が楽になった（若い職員には使いやすい。）
- 過去の記録を簡単に遡ることができる
- 直近の状況（食事や排せつ等）をグラフ化し、医師への説明資料にすることもできる
- 紙の記録と電子の記録を用途によって使い分けている
（業務中に一瞬だけ確認したい時などは、紙の方が便利。）



介護テクノロジーの活用について（まとめ）

●「人材確保」という視点から

- 介護ロボットもICTも職員の負担軽減策として大いに期待できる
 - ・機械に任せられる仕事は機械に
 - ・介護サービスの更なる向上（業務の効率化、ケアの向上）
 - 新規入職者の業務を補助
 - ・タブレットによる入力
 - ・見守りセンサー
 - 色の違いで利用者の状況が分かる
- ⇒ 新規職員にも分かりやすい

●効果的に導入・活用するには

- 現場の意見が重要
 - ・現場職員が本当に必要としているものは？
 - ・解決すべき課題を可視化
 - ・経営層・現場間での意見交換
- 計画作成、目標の明確化
 - ・プロジェクトリーダー、委員会の設置
 - ・問題に対する解決方法の模索
 - ・職員への研修、業務フローの見直し
 - ・具体的な数値目標の設定
 - ・段階的な計画作成

●従来のやり方との共存

- 「すべてデジタル化すれば良い」わけではない
 - ・手段と目的の取り違えに注意
 - ・ベテラン職員の経験則も大事
 - ・アナログな方法が良い時も
 - ・機器に慣れない職員もいる
- 最適な方法は現場によって異なる
 - ・従来の介護現場でのやり方をベースに、
 - ・各現場で試行・職員間での対話を繰り返しながら
 - ・ロボット・ICTを用いた方がよい部分を発見し、徐々に取り入れていく

お知らせ

◆県ホームページ

<https://www.pref.ibaraki.jp/hokenfukushi/chofuku/shisetsu/kaigorobottodounyuusiennzigu.html>

◆介護分野における生産性向上ポータルサイト（厚生労働省）

<https://www.mhlw.go.jp/kaigoseisansei/>

